

平成30年度 磐田市立福田中学校 学校評価書

A: 十分満足 B: おおむね満足 C: もう少し努力 D: 大いに努力

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学が楽しさを実感できる生徒	授業や家庭学習の取組を通して、主体的な学習態度を身につけた生徒の育成	「進んで友だちや教師に聞いたり自分で調べたりして学習できる」(70%)	B	○「進んで友だちや先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答えた生徒 70% 。 ※昨年度に続き、目標数値を達成することができた。ここ数年間継続してきた学力向上に向けた様々な取組が成果を上げてきているものと思われる。生徒の学習に対する取り組み姿勢も年々向上している。今後も授業改善に努め、生徒主体の授業、教科の面白さを伝えられる授業を積み重ねることで、自ら進んで学習に取り組む生徒を育成していきたい。また、定期テスト前の「放課後学習相談会」や、夏季休業中の「福中寺子屋」等も、地域の方々の力を借りて来年度以降も継続、発展させていきたい。	・授業の様子を参観すると、子ども達が意欲的に学習している様子が伝わってくる。何よりも子ども達が教科を楽しく学んでいることが嬉しい。今後も、生徒主体で、教科のもつ本質的な面白さに気づかせることのできる授業改善に取り組んでいきたい。 ・家庭での学習習慣の定着率が50%（保護者アンケート）であることを分析し、具体的な改善策を考えていきたい。 ・「福中寺子屋」は、学習したい生徒が参加しており、集中していても良かった。保護者からの評判も良く、もっと長い期間の開催を希望する声があがっている。 ・職場体験や未来授業は、生徒が「志」をもつための良いきっかけになっている。 ・交流センターとして、長期休業中等に空き部屋を自主学習のために提供することは可能である。
自分の良さを伸ばす生徒	自分の良さを見つけ、自ら伸ばそうとする生徒の育成	「自分には良いところがある」(73%)	B	○「自分には良いところがある」と答えた生徒 73% 。 ※自尊心が低い傾向にあった本校および本学府全体の共通重点項目として、ここ数年間、自尊心を高める取組を継続してきた。具体的には、様々な場面で生徒を「認め、励まし、賞揚する」機会を増やすこと、また、一人一人の生徒に達成感を味わわせることで自信をつけさせること等を全職員で意識的に行ってきた。これらの継続的な取組の成果が表れてきており、年々数値の向上(H29:72%、H28:67%)が見られる。今後も生徒の自尊心を高めていく指導を継続していきたい。	・人は「自分にもできる」と思わないと前には進まないで、適度な自尊感情を育むことは大切である。自尊感情が年々高まってきていることを評価したい。 ・グローバルな人材育成の観点からも、日本人の謙虚さだけではなく、自尊感情を高め、生徒に自信をもたせていくことは大切である。 ・子どもが笑顔で帰ることが多い。認めてくれる人が学校にいることは大切である。保護者も教師も子どもの小さな変化に目を向けていきたい。 ・体育大会での子ども達の伸び伸びと競技に取り組む姿や、係の仕事を自主的にこなす様子等から好ましい印象を受けた。 ・3年生の一部の評価データで、目標値を10%以上下回っているものが見られ、大切な進路選択の時期に自信を失っているのではないかがかりである。 ・敬老の集いや交流広場、防災訓練等で中学生ボランティアが活躍してくれている。今後も様々な活動を通して、中学生と地域をつないでいきたい。
互いに高め合うために規範意識をもつ生徒	互いに高め合うために、規範意識をもつ生徒の育成	「学級・学校には互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」(85%)	B	○「私たちの学級(学校)には、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答えた生徒 84% 。 ※目標数値を1%下回ったが、ほぼ目標を達成できた。数年前と比べると服装や髪などの乱れが減ってきており、当たり前前を当たり前前としてできる生徒が増加してきている。今後も、円滑な集団生活のためには約束が必要であり、その約束を全校生徒で守っていくことが大切であることを全職員で継続して指導していきたい。また、PTAあいさつ運動等、家庭や地域と協力・連携して「生徒が安心・安全に生活できる学校」をめざしていきたい。	・数年前の学校の状況を考えて、見違えるように落ち着いた学校になっている。油断することなく、今後も指導にあたっていくことが重要である。 ・当たり前前が当たり前前にならなかった時期があったので、今の落ち着いたことは喜ばしい。一度崩れてしまったら、元に戻るのに何年もかかることを、親も生徒も教師も意識していくことが大切である。 ・「規範意識」を高めるため、学校はもとより、家庭、地域社会との連携を進めたい。 ・自転車で登校する生徒が気持ちの良い挨拶ができています。 ・ルールを守ろうという気持ちがまだ甘いところも見られる。
命を大切に大に努める生徒健康	命を大切にするための正しい判断力を持ち、主体的に心身の健康づくりに努める生徒の育成	「健康10か条を守って生活できた」(87%)	B	○「健康10か条を守って生活できている」と答えた生徒 87% 。 ※昨年度は目標数値を若干下回ったが、今年度は目標を達成することができた。健康10か条に関する校内掲示や保健便り等を充実させることで生徒の意識を向上させた。また、今年度は健康10か条の中の睡眠時間に焦点を当て、学府学校保健委員会や健康の日の全校放送などの機会に継続して呼びかけることで、職員および生徒の意識化を図ることができた。反面、自転車マナーについては、減ってきてはいるが地域の方からの苦情が寄せられている。今後も登校指導や交通安全教室等を定期的に位置づけるとともに、継続的な声かけを行い、生徒の安全意識の向上を図りたい。	・自転車マナーについては、命に関わることなので、今後も登校指導や交通安全教室等を継続していく必要がある。 ・交通安全については、地域との連携も大切である。効果をあげるために、学校・家庭・地域の連携の在り方を考えていく必要がある。 ・「赤ちゃんと触れ合うこと」や「母親の話を聞くこと」等の活動を通して、自分や他人の命の大切さを深く感じるができると思う。 ・塾やゲーム、スマホ等により、生活のリズムが夜型になり睡眠不足になっている子どもが多い。スマホやゲーム等の管理で悩んでいる保護者も多い。
頼もしい教師	「学びの実感」を味わい、自ら学び続けようとする生徒の育成	「授業の内容がよく分かる」(75%)	B	○「授業の内容がよく分かる」と答えた生徒 75% 。 ※目標数値を達成することができた。多くの生徒は落ち着いた雰囲気の中で、授業に真剣に取り組むことができており、それが数値に表れている。また、数学科のTT指導や支援員による学習支援等、個に応じたきめ細やかな指導の成果も数値に反映されているものと思われる。今後も、一人一人の生徒に目を向け個に応じた学習支援の充実を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組むことで、生徒が「学びの実感」を味わうことのできる授業づくりに努めていきたい。また、全国学調の分析や新学習指導要領の研修等を充実させ、授業力の向上を図ってきたい。	・生徒と教員の努力を感じる。 ・授業を参観した際、若手教員を中心に、生徒と応答しながら学習を進めている授業がいくつか見られた。聞く一方の受け身の学習から、アクティブラーニングを意識した授業展開に取り組んでいく必要がある。 ・教員はもちろんだが、支援員等による個々の生徒への支援が結果に出てきていると思われる。今後もきめ細かな支援をお願いしたい。 ・小テストにより、目標達成に向けて小さな努力を積み重ね、結果を出していく経験ができていくと思う。

学校関係者評価を受けてのまとめ

数年前の状況と比べると学校全体に落ち着きが出てきていること、また、生徒が様々な活動に前向きに取り組んでいること等を評価していただいた。この状況に満足することなく、今後も危機感をもちながら生徒の頑張りを「認め・励まし・褒める」指導を継続するとともに、来年度は以下の点に特に注力していきたい。

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組む教科のもつ本質的な面白さを感じることで、授業を通して生徒の学習意欲や自信(自尊感情)を高めていきたい。
- ・「志」をキーワードに、キャリア教育を推進することで、将来の夢をもたせるとともに、学習に対する目的意識を明確にさせ、目標実現のための計画と継続的な努力の必要性等を考えさせたい。
- ・福田の子ども達の成長を支えるため、保護者や地域の方々、こども園・小学校との連携を深めていきたい。